

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>一人一人の興味関心に応じた学びを通して、主体的に自分の人生を切り拓き、地域で活躍できる人材を育成する学校 生徒一人一人の希望進路を実現するために、基礎学力の定着を図るとともに、総合学科の強みを生かした充実した キャリア教育を実践し、主体的に考え行動する力を身に付けた、地域に貢献できる人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<p>①夢や目標を持ち、チャレンジ精神を身に付け、「なりたい自分」に向かって努力を継続できる力 ②自分で課題を見つけ、考え、自主的に判断して適切に解決する力 ③困難な課題を解決に導くため、既存の発想にとらわれず、柔軟に向き合い、新しい解決方法を探る力</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<p>①3年間を見通した計画的で充実したキャリア教育 ②普通教科から体験的な学習を重視した幅広い専門教科まで100を超える科目から選択できる生徒の進路や適性・興味・関心に応じたオリジナルの時間割作成が可能なカリキュラム ③総合学科ならではの少人数授業の展開と進路実現に活用できる数多くの資格取得の奨励</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<p>①明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動等において、本校の中核となって活動する意欲を持つ生徒 ②総合学科高校を目指す、主体的に考え行動し、調べる力、聞く力、まとめる力、発表する力等を伸ばそうとしている生徒 ③確かな学力、健やかな体、豊かな心を持ち、社会の変化に柔軟に対応できる力を身に付けるため、学校ビジョン及び生徒行動指針の具現化に努める生徒</p>

学校運営計画(4月)

学校運営方針	<p>校訓 「自律・自彊・飛躍」、校是 「新世生よ、人生のプロデューサーたれ！」を抛り所とし、一人一人が自己実現を果たすと同時に、国家・社会・地域の発展に寄与する人材を育成することで、日本一満足度の高い総合学科高校をつくる。</p>		評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>[成果]</p> <p>1 授業研究チームを中心に全職員で研修に取り組み、授業改善に一定の成果を残した。</p> <p>2 新世マルシェや福島訪問は、地域や自治体を巻き込むことで、生徒たちの意識や意欲が高まり、大きな達成感が得られた。</p> <p>3 一人一台タブレットの配布により、授業以外での活用が広がり、個別最適な学びの環境整備が進んだ。</p> <p>4 体験入学の複数回実施やInstagramの開設により、効果的な生徒募集や若年層への広報が充実した。</p> <p>[課題]</p> <p>1 総合学科の特長を生かした進路実現を充実させる。</p> <p>2 引き続き授業改善に取り組むとともに、様々な学習活動を対外的に実績が挙げられるレベルまで高める。</p> <p>3 教育相談体制を拡充し、中途退学や不登校防止対策を強化する。</p>	<p>1 生きて働く知識・技能の修得と未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を実現できる学習指導</p>	<p>(1)ICTを日常的に活用できる環境を整え、「文房具」として自由な発想で活用できるようにし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。 (2)授業アンケートや相互授業参観を実施し、積極的に授業改善に取り組む。 (3)学習効果を高めるため、目標に準拠した多面的評価を行うなど評価方法の改善を図る。</p>	
	<p>2 将来の夢や志を育み、その実現を目指すキャリア教育の実践</p>	<p>(1)夢や希望を持って主体的に進路を選択できる力を育成するとともに、第1希望進路実現のために、3年間を見通した進路指導体制を確立する。 (2)「産社・総探」の指導内容の共通理解を図り、3年間を見通した系統的なキャリア教育を実践する。 (3)すべての生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現し、教育の質の向上を図る。</p>	
	<p>3 規律と責任を重んじ、人間性を高め、自主性や主体性を涵養する生徒指導</p>	<p>(1)基本的生活習慣の確立とともに、「新世スマイル」立ち止まり挨拶を長期的展望に立って指導する。 (2)生徒会活動、部活動、学校行事、ボランティア活動など、あらゆる機会をとおして、生徒の自己指導能力を高めるとともに、チャレンジ精神を培う。 (3)いじめや不登校等を未然に防止し、早期に発見・対応するための取組の強化を図るとともに、外部の専門家や関係機関と連携し、組織的に対応する。</p>	
	<p>4 家庭や地域から信頼される学校運営と積極的な広報活動</p>	<p>(1)生徒と向き合う時間を最優先に確保し、家庭、地域等と連携しながら、きめ細かく対応するとともに、教育活動を組織的にを行い、安心・安全な学校づくりと望ましい信頼関係の構築に努める。 (2)本校の強みや学科の魅力を中学生や保護者、中学校職員等へ積極的かつ効果的に発信することで、本校入学志願者の確保に努める。 (3)「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域の人的資源等を活用し、学校教育を社会との連携の中で実現する。</p>	
	<p>5 地域から学び、地域を支え、地域とともに成長する生徒の育成</p>	<p>(1)ボランティアをはじめ、地域との交流活動や体験的学習を積極的に推進する。 (2)地域人材による講演会等を計画的に実施して学びの機会を広げ、課題の発見や解決に向かう力を養う。 (3)行政や企業、大学等と積極的に連携し、地域の課題解決や提案などの取組を積極的に推進する。</p>	

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の項目等	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等
教務	学習指導要領に基づいたカリキュラムについて、全職員の共通理解を図る。	カリキュラムの内容・趣旨を確認し、効果的な指導法や新たな方策について各教科で検討し、授業満足度を向上させる。 スクールミッションについて理解を深め、職員研修会や分掌会、年次会等で重点目標等の共通理解を図る。 学校設定科目を再検討し、生徒が主体的に学ぶことができる学校設定科目を新設・再編し、群を再配置する。	授業アンケート 授業改善シート 学校満足度調査	
	主体的・対話的で深い学びに基づく、確かな学力をつけDeep learningを定着させる。	ICT等を活用した授業研究を推進し、1人2回相互授業参観を行うことで授業改善し「わくわく・胸躍る」授業を目指す。 目標準拠型評価(観点別評価)の効果的活用方法を研究し、授業の工夫により生徒の主体的・対話的で深い学びを進める。 主体的・対話的で深い学びを実感できる学力の評価・指導についての研修会を2回以上行う。	授業アンケート 授業改善シート 学習時間調査 学習状況リサーチ	
	個々の生徒の実態を把握し、能力・適性に応じた指導実践を行う。	進学強化委員会を年3回実施し、指導内容や指導方法について協議を行い、本校の生徒の実態に合った指導のあり方を検討する。 規則正しい生活習慣と授業規律を確立させ、皆勤率50%・家庭学習時間(年次+2時間)を目指す。 生徒の進路希望に関する情報を精査・分析し、ガイダンス等で効果的な面談を行い生徒の意欲向上を図る。	学習時間調査 学習状況リサーチ	
広報企画・研修	令和7年度の新入生160名定員確保を目指し、本校の魅力を中学校及び地域に発信する。	本校の教育活動を中学校及び中学生に知らせるため、中学校訪問を年3回以上実施する。 中学生体験入学(部活動体験会を含む)を年2回実施する。400名の中学生の参加を目標とする。 情報管理課と連携し、学校Webページ、インスタグラムを適宜更新する。広報活動として、マスコミへの取材依頼を積極的に行う。	中学生体験入学アンケート	
	主体的・対話的で深い学びの実践を目指し、他の分掌と連携し、授業改善に取り組む。	授業を客観的に評価できるように、相互授業参観期間を年2回実施する。 生徒の授業に対する意識を確認するため、授業改善アンケートを年2回実施する。 授業改善に係る作業がスムーズに行えるように、他の分掌と連携を密にする。	授業アンケート	
	各分掌と連携し、教育活動のスムーズな運営を行う。	職員の指導力及び資質向上を目指し、他の部及び課と連携し、職員研修会を年7回実施する。 幅広い教養を身に付けるため、図書委員会との連携を図り、10分間の朝読書を推進する。 校外及び校内における事務処理をスムーズに行うために、管理職及び関係する機関及び分掌との報告、連絡、相談を早めに行う。	購入希望図書リクエストについて	
生徒指導	「reborn(リボーン)」コロナ禍を経験し、これから新たなステージに進む。	マスクの適正使用を促す。 規律や秩序の再構築を図るために、挨拶や時間を守る習慣をつける。 生徒会を中心に行事の改廃を行う。	学校行事アンケート(体育大会・文化祭の事後) 学校生活アンケート	
	主体性やチャレンジ精神の育成	各委員会は目標達成するための、企画を行い実行する。 ボランティア活動の促進と体制を強化する。 「新世生の一言、言わせて」を実施する。	「新世生の一言、言わせて」の活用 自己評価アンケート	
	安心・安全な学校を目指し、危機管理の徹底と規範意識の醸成を図る。	生徒委員会に「いじめ防止委員会」(仮称)を新設し、啓発活動等を行う。 いじめに関する研修会を積極的に行い、未然防止に努める。 校則の見直しを継続しながら、新ルールの定着を図る。	いじめに特化したアンケート(記名・無記名) 生徒心得の見直しに関するアンケート	
保健環境	心身の安全や健康への意識を高め、心身ともに健康管理ができる生徒を育成する。	健康の専門家による講演会を実施し、生徒の関心を高める。 保健委員会を活性化させ、委員会を定期的に開催し、行事等で保健に関する業務を行う。 教育相談週間なども活用し、相談環境の整備、周知をし、相談を促す。	生徒へのアンケート 学校生活アンケート	
	教育相談体制の充実を図り、連絡体制、支援体制をより良くする。	教育相談委員会を毎月開催し情報共有、早期対応につなげる。 いじめアンケート、学校生活アンケートを毎月実施し、生徒理解につなげる。 SC、訪問相談員、SSWなど、関係諸機関との連携を図り、必要な支援を行う。	いじめアンケート 学校生活アンケート	
	環境・美化活動への関心を高め、活動につなげる生徒を育成する。	環境美化委員会を活性化させ、環境美化だよりを継続し、環境美化への関心を高める。 クリーンアップウォークを年2回行い、清掃に対する意識を高める。 ワンヘルスに関する取り組みを取り入れる。	生徒へのアンケート	

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の項目等	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等
進路指導	夢や希望を持って主体的に進路を選択できる力を育成する。	「進路の手引き」を活用し、早めに進路希望を明確にして1～3年間の見通しをもたせる。 進路関係を含む諸行事への主体的な参加を通して、自らの成長を実感し、自己肯定感と進路意識を高める。 進路応援助成金の活用を促し、取得した資格を就職や進学に向けた自身の強みとする。	・「進路の手引き」の内容・活用について ・進路ガイダンス・講演会、オープンキャンパス等への参加後の意識調査	
	個に応じた指導体制を確立し、すべての生徒の第1希望進路実現を目指す。	進学希望者には、短期的目標を立てさせ、模試結果のフィードバックを丁寧に行う。 公務員を含む就職希望者には、チームとして互いに切磋琢磨させ、総合的な力を伸ばす。 キャリアパスポートを活用し、生徒自身が振り返りを行う機会を充実させる。	・キャリアパスポート、模試結果等の活用について	
	進路実現に必要な確かな学力を身に付けさせる。	教科、年次、他分掌と連携して、確実な基礎基本の定着と伸長を図る。 成績上位層を伸ばすため、授業や模試、資格と関連させた課外の内容の充実を図る。 一つの受験方法に頼らない学力強化を図り、多様な受験方法への対応力をつける。	・課外受講者(進学・就職・公務員・資格)への課外アンケート ・受験等の情報提供について	
総合学科 推進	キャリア教育を推進し、全教育活動を通して、社会的・職業的自立に向けた能力と態度の育成を図る。	3年間を通した系統的なキャリア教育の共通理解を図り、年次の産社・総探担当者に探究活動などの情報提供を行う。 全教育活動の中で、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質の育成を意図した指導、助言及び評価を行う。 産社・総探の授業においては、授業担当者が共通理解をもって指導を行うことができるよう指導案を作成する。	・総合学科発表会参加者アンケート ・授業アンケート	
	「産業社会と人間・総合的な探究の時間」の指導内容を充実させ、3年間を通して系統的指導を計画し実施し、総合学科発表会の成功につなげる。	1年次の産社では、体験的な活動や協働的学び合いを重視し、科目選択や進路実現に結びつくようライフプランを作り、全生徒が自分の言葉で原稿なしによる発表を行う。 2年次の総探では、個々の進路目標や興味・関心に応じた課題設定を基に課題研究を行い、全生徒がプレゼンテーションを行い、研究の成果を発表する。 3年次の総探では、協働的な探究活動を通して、これまでの探究活動をさらに深化させることにより、全生徒の第一希望での進路実現を目指す。	・総合学科発表会参加者アンケート ・授業アンケート	
	地域との連携を積極的に進め、地域の課題を発見し解決する力などの育成を図る。	社会人や本校卒業生、地域で活躍されている方による講演会を前期に実施する。 行政や企業、大学等との連携を中心となって進め、活動報告を総合学科発表会で発表する。 産社・総探などの活動や成果を地域に発信するために、前期、後期それぞれ5回はホームページの更新を行う。	・総合学科発表会参加者アンケート ・外部評議員の聞き取り	
情報管理	テクノロジーインフラを強化する。	現在の課題を集約し、校内のITインフラストラクチャーを改善する。 障害対策とリカバリー、障害が発生した場合に迅速に対応するための手順を策定しネットワークの可用性を向上させる。 ICT機器の利用手順・手続きを明確化し共通認識を図る。	・ICT活用調査	
	生徒および職員への情報技術の利用やデジタルツールの活用に関する情報の提供、支援の充実を図る。	学習者用端末の活用を推進するため、生徒ポータルやアプリの活用情報を提供し支援する。 最新の技術トレンドなどの情報を収集し、有効な技術を授業や校務システムに活用する。 新CMSシステム(学校ホームページ作成システム)へ移行する。	・ICT活用調査	
	データセキュリティの向上を図る。	重要なデータや個人情報を保護するために暗号化フォルダの積極的活用などセキュリティ対策を強化する。 重要なデータの保護と可用性を確保するために不要データの削除やバックアップなど定期的なデータ管理を実施する。 特に行事前後や職員研修会など適切な機会に問題事象などの事例や情報を生徒・職員に提供することによりセキュリティや規範意識の醸成を図る。	・ICT活用調査	

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の項目等	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等
1年次	生徒一人ひとりの希望進路実現を見据え、確かな学力を身につけた生徒を育成する。	学びなおしを充実させ、スタディサポートにおけるG/TZでBゾーン以上の生徒の50名を目指す。	スタディサポート結果 家庭学習時間調査	
		積極的な資格取得を促し、全生徒が1つ以上の検定に合格し、資格を取得することを目指す。		
	キャリア教育を充実させ、主体的に考え、行動する生徒を育成する。	学習習慣を定着させ、考査前の学習時間調査において180分以上を目指す。	「産業社会と人間」アンケート	
		原稿なしスピーチを徹底し、人前で自分の考えを述べたり、プレゼンを行うことで「自己表現力」を高める。		
失敗を恐れず、進んで行動し、いろいろなことにチャレンジする生徒を育成する。	学校行事やボランティア活動など体験的な活動を通して、主体性を高め、社会奉仕の気持ちや、地域に貢献することに誇りを持たせる。	1年次振り返りアンケート		
	社会人講話や卒業生講話を行い、職業人としての資質、能力を理解し、自己のやるべきことを明確にし、「ライブプラン」作成につなげる。			
2年次	進路意識を高め、進路実現に必要な学力を身に付けた生徒を育成する。	5分前行動、笑顔で挨拶、環境整備を徹底させ、当たり前を当たり前にできる生徒を育成する。	家庭学習時間調査 学習状況リサーチ	
		生徒たちが年次の行事の運営などを行うことで、「新世生」としての意識を高め、企画力などを身に付けさせる。		
	キャリア教育を通して、主体的に企画し、実行できる生徒を育成する。	年次通信を4回は発行し、生徒たちの活動や成長の様子を保護者に向けて発信する。	総合的な探究の時間のアンケート	
		進研模試については偏差値50以上の生徒を最低10名、Bゾーンを30名以上、B1以上を10名以上を目指す。		
	中核年次としての自覚を持ち、自らの考えを表現することのできる生徒を育成する。	オープンキャンパスに行く計画を立て、一つでも多くの大学や専門学校に行かせる。	総合学科学発表会アンケート クラスマッチアンケート	
		生活習慣を確立し、家庭学習時間を確保させることで平均240分の生徒を最低7割達成する。		
3年次	第1希望の進路実現100%を目指す。	生徒が主体的になれる環境作りを行い、自らの考えを実行できる組織作りをする。	総合的な探究の時間のアンケート	
		課題研究の中で地域や地元の方々の声を拾い、課題を見つけ、自らの考えを提示する。		
	「人生のプロデューサー」として、主体的に自分の人生を切り拓いていく生徒を育成する。	外部講師を招き、多くの知見を取り入れることで、より深い思考を身に付けさせる。	キャリアパスポート 3年間の振り返りアンケート(満足度調査) 新世マルシェ来場者アンケート	
		学校行事や年次行事において活躍の場を設け、多くのアイデアを出させ、自らを活性化させる。		
	最上級年次(Team20期生)として保護者や地域社会との連携を図りながら、社会に貢献できる人材を育成する。	年次掲示板の工夫を行い、外部のコンクールや講演を紹介し、情報発信する。		
		年次通信(3回以上発行)を有効活用し、生徒の成長を保護者へ発信する。		
	4月中に二者面談を実施し志望校検討会で情報の共有を図り、多様な進路に対応できる組織的な指導体制を確立する。			
	大学・短大・医療系希望者は課外、模試、学習時間調査、集中勉強会等を活用し、家庭学習時間平均180分以上を目標とする。			
	小論文・志望理由書ナビや面接指導「7人の侍」等を活用し、個々に応じた計画的な手立てを講じる。			
	「感動の涙を3回流そう!」を合言葉に全力で取り組ませる。			
	ディベート、進路講演会、年次掲示板等を活用し、進路実現に向けて主体的に考え行動する力を身に付けさせる。			
	「新世マルシェ」を企画・運営し地域に根ざして活躍することに静かな誇りを持たせる。			
	「時を守り 場を清め 礼を正す」姿を後輩に示し、最上級年次としての自覚と責任を持たせ、人間性を高める。			
	進路講演会やchromeを活用した三者面談を実施し、保護者との信頼関係を構築する。			
	メディア、HP、インスタ、年次通信(年3回)を活用し、「新世ブランド」としての生徒の活動を発信する。			